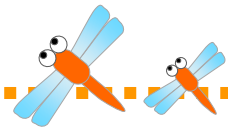




※学・Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

平成 28 年度 第 1 回みえスタディ・チェックの結果が公表されました
～ 課題に対応したワークシートの活用を！ ～

		国 語	算 数 / 数 学	理 科
小学校 4 年生	県平均 正答率	66.0%	62.0%	58.5%
	無解答率	4.8%	2.4%	7.7%
	ワークシート 結果からみえてきた課題と対応した	文の定義を理解し、句点に注目して文の範囲を捉えること	表の見方を理解していること、きまりに基づいて筋道を立てて考えること（無解答率も高い）	電気を通す物、通さないものについて理解し、実験の内容を改善すること（無解答率も高い）
		小 4 年 「文と文をつなぐ言葉」	小 3 年「23 宅配便（数と計算、量と測定、数量関係）」	「みえスタディ・チェック H 2 6 2 月実施 小 3 年・1」
小学校 5 年生	県平均 正答率	65.0%	58.5%	61.1%
	無解答率	4.0%	5.3%	2.6%
	ワークシート 結果からみえてきた課題と対応した	書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと	与えられた条件に合う時刻を、筋道を立てて考え、時刻表から選択すること	観察結果を考察して分析し、くもりの日や雨の日の気温の変化と比べ、晴れの日の気温の変化の特徴を記述すること
		小 3 年「しりょうから分かったことをまとめよう」	小 3 年 「どれだけかかるか考えよう」	小 4 年「天気の様子～天気と気温の調べ方」
中学校 1 年生	県平均 正答率	69.2%	61.2%	42.5%
	無解答率	3.1%	3.3%	7.7%
	ワークシート 結果からみえてきた課題と対応した	登場人物の心情や場面についての描写を捉えること	一直線の角や合同な三角形の性質を基に、直角になる理由を言葉と数、記号を用いて記述すること	グラフを分析して考察し、物質をすべて溶かすために加える水の体積を求めること
		「みえスタディ・チェック H 2 6 7 月実施 中 1・国語 1」	小 3・5 年「45 ライン引き（数と計算・図形）」	小 5 年「物の溶け方 学習チェック問題①、②、活用問題」
中学校 2 年生	県平均 正答率	64.8%	56.6%	41.1%
	無解答率	7.2%	4.3%	11.4%
	ワークシート 結果からみえてきた課題と対応した	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要旨を捉えること	事象を式の意味に即して解釈し、その結果について、数学的な表現を用いて説明すること	溶解度のグラフを分析して解釈し、物質をすべて溶かすことができる水の質量を推測すること
		中 1 年 「14 説明的な文章を読む」	「みえスタディ・チェック H 2 6 2 月実施 中 1・数学 5」 中 1 年 「2 つの数量の関係を考えよう」	中 1 年 「溶解度について考えてみよう ①、②」



「一人ひとりの子どもの特性を大切にした学力向上の取組」

～「学び合う」土壌を大切にした国語の授業づくりを中心に据え～

学力向上に向けた具体的な取組 ～学力と自尊感情を育てるための指導力の向上～

保護者の声
「家で勉強する
時間が増えま
した」

◆ 基礎学力の定着 → 全ての子どもたちに「わかった!」「できた!!」を味わわせる

発問や板書の工夫、
授業のユニバーサル化

「朝の学習」の時間を
設定

「家庭学習の手引き」
を配付

- 端的でわかりやすい発問
- 板書の構造化と視覚支援

- 「5分間プリント学習」等を
毎朝実施

- 内容や目安の時間等を提示
- 「『自学ノート』学習」(高学年)
に取り組み、参考となるものを掲示

- 基礎学力や日々の学習習慣の定着につながっている
- 掲示された「自学ノート」が低学年や保護者の参考になり、家庭学習の充実につながっている

◆ つながり合い、学び合う子どもたちの育成

- ・ 定期的にソーシャルスキルトレーニングに
取り組む
- ・ 「学び合う」場を設定

授業に「ペアトーク」&「グルーブトーク」活動を位置づける

- 子どもたち同士、自然に声を掛け合う姿がよく見られる
- 互いに教え合い、高め合おうとしている

学級で指導 → 全校集会で児童会から呼びかけ

↑ ☆ 身に付けさせたいスキル ☆ ↓

フォローアップ ← 全校で取組期間を設定

地域の声
「子どもたちがよく
挨拶をするよう
になりました」

◆ 教員の授業力向上

- ・ 「国語の授業づくり ～ フレームリーディングを取り入れた国語の授業研究 ～」
年1回、全教員が授業を公開 ワークショップ形式での事後協議と自分化シートの作成
- ・ ソーシャルスキルトレーニング等を活用した「学び合う」土壌づくりの研究
- 積極的に研究会に参加するなど、自己の授業力の向上に努めようとする教員が増
- 授業公開から得たものを翌日の自分の授業に取り入れていこうとする教員の姿



少人数指導での具体的な取組 ～少人数教育の研究～

- ① 独自学級を設置し、1学級の児童数を少人数にして指導
- ② 特定の教科(6年生算数)は習熟度別少人数で指導
- ③ 低学年はティームティーチングで指導

- 発達段階や一人ひとりの状況、特性を生かした教育の推進
- 落ち着いた環境を提供するとともに、きめ細かく指導することができ、効果大◎



特別支援教育の充実

◆ 「チャレンジルーム」「ステップルーム」の設置

- 全ての子どもたちの困り感に寄り添う
一人ひとりの課題に応じた学習の場

★「チャレンジルーム」

→ 生活の自立に必要な学習を実施

★「ステップルーム」

→ 落ち着いた環境の中で、主に教科の学習を
少人数で実施

家庭と連携した読書活動の充実

- ・ 月に一度、「うちどく」の日を設定し、親子で読書
- ・ PTAと協力し夏季休業中の図書館開放
- ・ 毎週一回、ボランティアによる「おはなし会」
- ・ 年に一度、絵本作家を招へいし「ものがたりライブ」

● 図書館の整備や環境が充実

● 家庭と連携した「うちどく」
が根付いてきており、読書
に親しむ子どもが増えた

保護者の声
「本をよく読むよ
うになりました」

南立誠小学校長からのコメント

全ての子どもたちが授業中、「わかった」「できた」という思いを持つように、また、子どもたちが真剣に前向きに授業に取り組めるように、日々の地道な教育活動を大切にしながら、取組を進めています。
教職員が一丸となり、特に国語科を研修の中心に据え、これからも子どもたちの学力向上に努めたいと思います。

地域総がかりで子どもたちを育む

山口県教育委員会の取組

～「やまぐち型地域連携教育」の推進～



山口県の「めざす学校像」

- ★ 地域に開かれた学校
- ★ 地域づくりに貢献できる学校
- ★ 地域の人々の拠り所となる学校

山口県のめざす「コミュニティ・スクール」

3つの機能

～ 平成 28 年 4 月 1 日 山口県内全ての市町立小・中学校を「コミュニティ・スクール」に指定 ～

1

学校運営

学校運営の質の向上

- 学校を開き、熟議により課題を共有 → 解決に向けて地域と一緒に取り組む
- 学校運営協議会において学校評価を効果的に活用 → 学校運営を改善
- 学校運営協議委員による授業参観や評価 → 教職員の人材育成



2

学校支援

学校教育の質の向上

- 学校・家庭・地域が学校課題や目標等を共有 → 教育支援活動を充実
- より多くの地域住民や保護者の参画による教育支援活動を展開 → 子どもの豊かな体験や学びにつなげる
- 学校の様々な活動を地域のボランティアが支援 → 教員が子どもと向き合う時間を確保

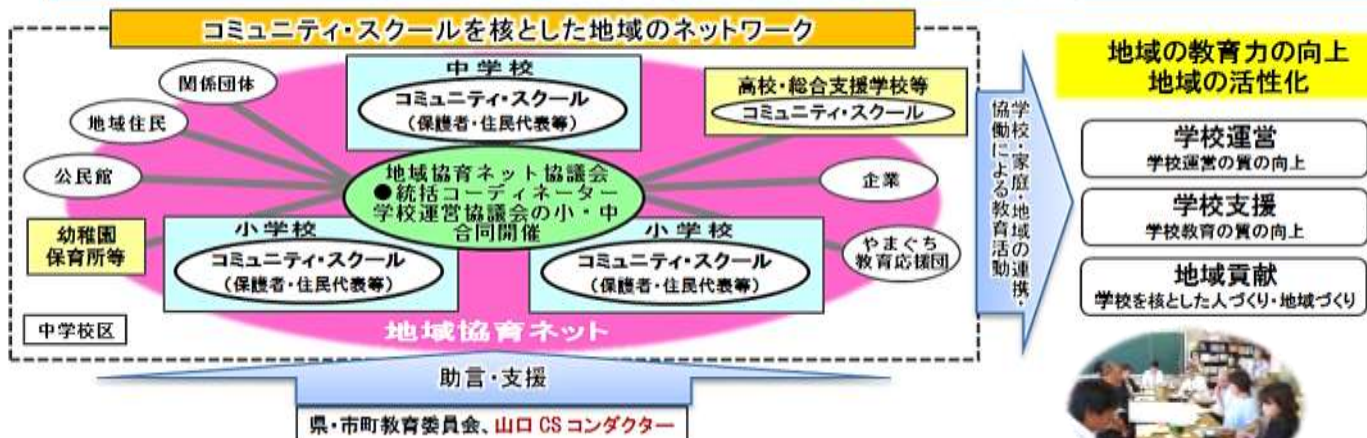
3

地域貢献

学校を核とした人づくり・地域づくり

- 子どもが地域行事やボランティア活動に参加 → 地域の大人とふれあう機会や多様な経験をする機会を増やす
- 学校という場 → 地域住民の経験や学習の成果を生かす場、大人の学びの場
- 学校という場が、地域住民の拠り所 → 大人同士の絆を深めていく

「やまぐち型地域連携教育」の推進



推進に向けた県教育委員会の取組

市町教育委員会との連携強化！

① 全県的な推進体制の構築

- 山口県CS推進協議会
- 山口県「学校・家庭・地域の温かい絆づくり」推進会議 等の開催

② 研修会の実施

- 山口県CS推進フォーラム、山口県地域教育力日本一研修会、やまぐち地域連携教育研修会

③ 推進の核となる人材の配置・養成

- 山口CSコンダクターの配置
- 平成27年13市 → 平成28年全19市町に配置
- ※ CS = コミュニティ・スクール

④ 好事例の普及・啓発

- 子育て番組でCSや地域協育ネットの取組を広報

⑤ 熟議の場づくり支援

- 資料の提供や研修により、各学校や地域協育ネットをサポート

⑥ 学校教育と社会教育の連携推進体制の構築

- 義務教育課、社会教育・文化財課、教育政策課による定例的な会議の開催

⑦ 県立学校へのCSの導入

- 県立高校3校にCSを導入(H28.4.1) 地方創生、特色ある学校づくり

※ 熟議 = 協働を目指した対話





菰野町教育委員会の取組から



学力の向上にかかる取組

● 町単独で非常勤講師を各学校に配置し、少人数指導！

小学校・・・中学年と高学年の算数科

→ 5年生では習熟度コース別少人数学習を導入

中学校・・・2、3年生の英語科・数学科を中心

効果！

- ◆ 学習の理解度や定着の様子、個々のつまづきを的確に把握
- ◆ 個人差を考慮した学習指導
- ◆ 机間指導や個別指導の時間が増
- ◆ 基礎的、基本的な学力が確実に定着
- ◆ 思考力、判断力、表現力を高める学習が充実

「じっくりコース」

- 基本的な問題にじっくりと取り組めた！
- 発言しやすかった！
- 自分のペースでがんばれた！

「ぐんぐんコース」

- たくさんの問題に取り組めた！
- 助け合って難しい問題がとけた！
- 難問に挑戦できた！

継続的に
少人数指導を
実施！

● スクールソーシャルワーカー（SSW）によるアドバイス

新しい視点を持って
子どもたちや保護者
に対応

子どもたちとの距離が「縮」
&
保護者との連携「強」

子どもたちとの
信頼関係◎

落ち着いて授業を
受ける子どもたち

学力向上！

● 標準学力検査（CRT 検査）の実施（小学校4年生；2教科、中学校1年生；5教科）

- ・ 三重郡教育振興会で結果を分析 → 学力の定着状況の把握
- ・ 三重郡内各学校の授業改善の取組について、成果と課題を検証

● 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果から

- ・ 各学校における成果と課題を整理
→ それぞれの強みをさらに伸ばし、弱みを克服するための授業改善
- ・ 家庭での学習の仕方にも課題
→ 「家庭学習の手引き」を作成し、全児童生徒・保護者に配付



家庭学習の取組

- ・ どのように家庭で学習するのか
- ・ どんなことをするのか

小学校 1,2 年生版

学習のめあて
学校の宿題を確実に、そして、ていねいにすることが大切です。まず、学校から出された宿題をしましょう。宿題が終わったら、自分がしたい学習をしましょう。
【学習時間：10分～30分程度】

小学校 3,4 年生版

学習のめあて
身につけた家庭での学習習慣をくずさないように、毎日進んで学習することが大切です。だれかに言われるまゝに、自分から机に向かいましょう。
【学習時間：30分～40分程度】

小学校 5,6 年生版

学習のめあて
学校で習ったことを復習して確実に身につけることが大切です。学校でやった問題をもう一度家庭でやってみることで、自分から学習を進められるようになります。また得意科目だけでなく、苦手な科目にも挑戦していきましょう。
【学習時間：50分～60分程度】

中学生版

学習のめあて
小学校のときに比べて、学習の進度や授業内容が大きく変わり、予習や復習をする、しないによって内容の理解度や定着に差ができてしまうのが中学生です。中学校卒業後の進路についても、ある程度目標を定め、中学1年生のうちからこつこつと努力することが大切です。
【学習時間：90分以上】

コミュニティ・スクールの取組

学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える仕組み

● 町内全ての小中学校でコミュニティ・スクールを導入（平成28年～29年度）

- ・ 保護者、地域住民等が積極的に学校運営に参画するシステムの構築
- ・ 学校教育活動の充実
- ・ 学校、保護者、地域住民が協働

〈取組の継承〉

- ・ 既存の地域教育協議会や評議員会等をうまく活用
- ・ ゲストティーチャーや学校図書館等のボランティア活動をコミュニティ・スクールに位置づけ、保育園、幼稚園、小中学校の連携を生かす

～「菰野町ならではの」コミュニティ・スクールを創造～

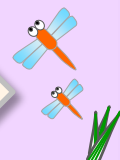


地域住民が
中学校に**来校**する
機会が**増**！

学校の**課題を共有**

課題解決に向けて
たくさんの意見

学校が**落ち着き、
学ぶ環境が保障**
された！



● 研修会の実施・・・夏季休業中に2回（菰野町教育委員会、中学校区）

「学校づくり
ビジョン」
の実現！